

■ 編集だより

編集後記

精神神経学雑誌がオンラインジャーナル化されて1年が過ぎました。本年1月からは希望者のみに紙媒体を送付することとなり、約1万人の会員（会員数約16000人）がオンラインジャーナルで本誌を読んでもらっています。これにより、年間の送付費、印刷費などおよそ2000万円以上の予算の削減がなされました。アーカイブズ化を進めていますので気になる論文を手軽に探ることが可能になります。また、オンラインジャーナルならではの機能がありますし、スマートフォンやタブレットでも読みやすいように工夫してあります。メールマガジンで発刊をお知らせしています。

精神経誌は、わが国の精神医学、精神医療の発展を目的に日本精神神経学会が毎月発刊している精神医学関連の雑誌の中で最も歴史を有する学術誌ですので、原著論文や症例報告などの論文だけでなく、各種委員会が作成した資料論文など学会活動の一部も掲載します。したがって、精神医療政策にも影響を及ぼすような社会的な役割も有しています。この傾向は、学会活動の活性化とともに益々増大していくものと考えていますので、精神経誌をぜひ読んで頂きたいと思っています。

論文審査は公平に行い、迅速に情報を発信し、より精神医学が発展することを目指していますが、原著論文の掲載が極めて少ないことに危機感を抱いています。臨床報告でも原著性が高いことを勘案し、臨床的な論文を原著として受理するようにしています。他の精神科関連の学会誌を読むとたいへん臨床的にも役立つ論文が掲載されており、どうして精神経誌に投稿されないのかとも思います。学会員の大多数が臨床に携わっているということを考えれば、臨床に役立つ貴重な症例報告や臨床報告はもっと投稿されてもよいのではないかと思いますし、精神経誌に載ることによる影響は大きいと思っています。審査の過程で、修正をすれば良い論文になると考えられる投稿論文には、教育的な態度で査読者が良い論文になるまでつきあうようにしていることを、指導的な立場の先生方に積極的に周知していく必要があると考えています。けっして受理のハードルを上げているわけではないことを理解して頂きたいと思っています。ただし、倫理的な審査が必要な研究では倫理委員会の承認の有無、症例報告の場合には患者さんの了解を得る、あるいは症例が特定されないような配慮、二重投稿ではないことなど論文投稿の基本的な姿勢は明確に守って頂きたいと考えています。また、オンライン投稿になって、投稿数が減るのではないかと危惧していましたが、まったく減っていませんので、ウェブでの投稿は原稿さえできていれば、難しくはないことが理解して頂けるのではないかと思います。できるだけ投稿者に便利な投稿規定に少しずつ変化させていきますので、会員の皆さんにも投稿規定を十分理解されて是非投稿をお願いしたいと考えています。投稿をお待ちしています。

中村 純